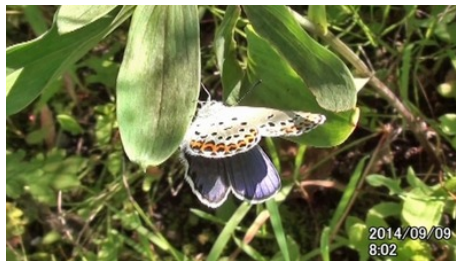


ミヤマシジミは現在絶滅危惧Ⅱ類選定の保護対象チョウで、一度は出会いたいと思っていたが、可能性があると思われた妙高笹ヶ峰牧場でもみられず、確実に会える産地も知らないまま時間が過ぎていた。このようなチョウに、全く予期しない出会いをすればその喜びは大きいのだが、2014年9月9日、くしくも妻の誕生日にそれは実現した。

Sep. 9, 2014：長野県大町

9月初旬の信州地区ではミヤマシジミがみられると聞いてはいたが、実際に出会えるとは思えない早朝散歩の途上、走ってきた車にぶつかりそうになったシジミチョウが目に入る。車が行き過ぎた直後、どこかが当たったのか、気絶状態で横たわるシジミチョウにそっと触れようとしたその瞬間、チョウはよろよろと飛び立ち、路傍の土手側へと飛ぶ。その飛翔時にみえた裏面のオレンジ模様はヒメシジミかミヤマシジミ。大きさからすれば絶滅危惧Ⅱ類選定種のミヤマシジミの



ようで、すぐにその飛翔についていく。朝日を受けてとまったそのシジミチョウは間違いなくミヤマシジミのみ。幸いどこにも損傷はないようだ。周りをよくみるときれいなピンクの花をつけたコマツナギが自生している。密度は濃くない。そこで他にもミヤマシジミがいらないかと探してみると、太陽光を受けて体を温めていると思われる個体が複数観察でき、ここがミヤマシジミの発生地となっていることがうかがえる。ほとんどが新鮮な個体だ。その中で、美しい紫がかったブルーを披露しながら開翅姿勢をとる♂をみつけて初の開翅撮影記録。メスだと分かる翅表をみせてとぶ個体を追ってみるがとまった状態で開翅はしてくれなく、他の撮影記録もメス個体かどうか分からない。いずれにしても予期せぬミヤマシジミに出会えたことに感激ひとしお。ここではウラナミシジミがクズのマント周辺を飛び交い、ツバメシジミやキタキチョウもみる。細いカワヤナギの枝から樹液が出ているのかコムラサキの♂がもぐりこむように飛来する。撮影には向かない位置のため近づこうとして飛び去られるが、朝から楽しい時間となる。

